



北広島市高齢者総合ケアセンター聖芳園

聖芳園だより

令和4年6月15日

268号



青葉の候ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
また日頃より聖芳園の運営につきまして格別のご配慮をいただき厚く感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の流行が続き、2年半が経過しました。2020年初めに、日常生活が落ち着くまでには例えるなら“短距離走ではなく、マラソン並みであり複数年かかる”という話を初めて聞いた時は、まったく実感がわかなかったことを覚えています。やるべきことを行っても、この感染症が施設内で発生すれば「災害」と同意義であり、乗り越えるためには普段からの準備や事前の想定がいかに重要であるかということも学んでまいりました。この間職員やその家族が若干名罹患したものの、幸いなことにお客様の感染はなく過ごせてはいます。しかし他事業所の厳しい状況は決して他人事ではなく、先日は道の介護職員派遣要請に応じ、クラスターが発生した特養へ何とか2回目の派遣ができたところです。
人と関わるのが基本のケアの現場において、以前なら当たり前だったことがとても大切だったと実感することは多いのですが、これからも様々な事柄を状況に応じながら段階的に進めていきます。またみなさまからいただく温かい言葉が職員にとって大きな励みになっています。ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

～聖芳園はボランティアのみなさまに、支えられています～

聖芳園を支えてくださるボランティアのみなさまにはいつもたいへんお世話になり、ありがとうございます。施設内だけでなく、地域で行っているサロン活動等でもお力になっていただいておりますが、コロナ禍では集まることもままならない状況が続いていました。方法等を工夫しながら少しずつ進めてまいりますので、どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

～今回の聖芳園だより 特集について～

今回のおたよりは、特別養護老人ホームに入居されているお客様の生活に焦点をあて、行事や催し物を通してご紹介します。また生活を支える介護職員の新たな取り組みについてもお知らせします。



ケアワーカーのお人形のような和風姿に笑顔があふれています（成人式）



ぽかぽか陽気に誘われて・・・

特別養護老人ホーム**聖芳園**の日常生活

コロナ禍でご家族の面会に制限がある中、入居者のみなさまの日々の暮らしを、行事や催し物の様子からご紹介します。



雑念を捨てて書に向き合う。



【ビューティ講座】 マニキュアを塗って爪を綺麗にしました。いくつになってもおしゃれは大事よ。



新年交礼会とお琴演奏会
お琴の音色が心に染みますね。



風船バレー
これがなかなか難しい。



鬼に豆をぶつけ、邪気を追い払い
【無病息災】
-節分-



園庭散歩
花の香りに誘われて・・・



「人生捨てたもんじゃねえぞ、楽しく今を生きろ」
と言ってもらえているようです。



映画鑑賞会 本日は「男はつらいよ」
「おてんとうさまが、見ているぜ！」って寅次郎
さんが言っていたなあ



クリスマス演芸会



寿司昼食会
食する喜びが心も満たす。

聖芳園家族会について

設立は昭和59年4月。入所者の生活の資質向上のため、また聖芳園の運営を側面から支援するなどを目的として、入所者のご家族で構成された組織です。

活動は、聖芳園の行事等への参加、母の日・父の日プレゼント、敬老の日プレゼント、センター祭に模擬店出店、盂蘭盆会法要への供花と多彩です。

ここ3年はコロナ禍で行事の開催が難しい状況ですが、少しでも楽しく過ごしていただけるよう、折々にお花やお菓子の贈呈をしています。



母の日のお花



スイーツバイキングのケーキ



お正月の和生菓子

特別養護老人ホームのケアワーカー（介護職）の仕事で代表的なものとして、お客様の食事、口腔ケア、入浴、排せつ等の介助があります。

わたくしたちは、お客様に快適に過ごしてもらいたいとの思いを大切に日々の業務を行っていますが、その気持ちだけでは上手くいきません。介護の専門知識や技術も必要です。質を向上するため施設内研修を定期的に行なっています。以下、新たな取り組みの一部を紹介致します。

ICT プロジェクトについて

ICT とは「Information and Communication Technology」（インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー）の略で、情報通信技術を活用したコミュニケーションです。

聖芳園でも、介護の現場に、介護の補助を目的として「介護ロボット」の機材をスムーズに導入していくためにプロジェクトチームを作り取り組んでいます。

現在導入している「介護ロボット」は、車椅子からベッド等への乗移りの補助、膀胱内の尿量のデータを時間毎に記録する機材があり、排泄の感覚を探る科学的な介護の取り組みを少しずつ行なっています。

ただ、いくら優れた機材も正しく統一した使い方をしないと最高のパフォーマンスは発揮できず、最悪の場合はケガなどの事故につながります。ケアワーカー全員が正しく統一した使い方ができるように施設内研修を行っています。

お客様の自立を支え自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるように、また介護現場の魅力向上の一助になることを目指しています。

スカイリフト(2台)

スカイリフトとは、移乗動作（乗り移り動作）の補助を行ってくれる機材です。

また、腰回りを覆わないスリングシートを使用すると、ズボンの上げ下げを行なえるため、トイレでの排泄ケアも行えます。

移乗介助は前から職員がお客様を抱えてお手伝いする際は、そのケアワーカーの体幹などの力の強さによりお客様側の負担も変わってくる部分があります。「スカイリフト」を使用すると、お客様の持つ足の力により、移乗動作が行なえるので、どのケアワーカーでも同じように移乗することができます。



「スカイリフト」のメリットとしてお客様は「ベット上ではなくトイレで排泄ケアができる」「車いすや便座への移動が楽になる」などがあります。

介護する職員は「排泄介助がスムーズに行える」「二人介助が一人介助でも安定する」「腰への負担が軽くなる」「介護の統一」などが挙げられます

※足が床面にしっかり着地できない、股関節の可動域に制限があるお客様の使用は難しいです。



＜使用例＞

D - Free (膀胱センサー) (2台)

「D-Free」とは、超音波センサーで膀胱の収縮を検知し、膀胱に溜まっている尿を時間別にデータを取る機材です。

ご自分で尿意を訴えられないお客様は排泄のタイミングがつかみづらいのですが、「D-Free」を使用することで、お声がけやトイレ介助、オムツ介助のタイミングを知ることができます。

排泄介助のタイミングが把握できると「オムツパット内での失禁」、「パット内の失禁による不快感」などが軽減され適切な介助ができると考えています。

また失禁したパットに触れている時間が長いほど肌トラブルのリスクも高くなるので、時間が短縮されることで肌への負担を取り除くことができます。



使い方の研修



外国人介護人材受け入れプロジェクト

聖芳園では今年度から外国人介護人材の受け入れを行っていくこととなりました。人材不足が深刻化している状況が続いていますが、施設全体での受け入れに向けて、一緒に働く仲間がスムーズに新しい生活に慣れることができるように取り組んでいます。

オンライン研修にはケアワーカーだけではなく、共に勤務する多職種（ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、看護師、事務職員等）も参加しました。日本での「仕事面」と「生活面」を職員全体でサポートできるように準備を進めています。現在、インドネシア出身の男性2名の受け入れを進めており、定期的にオンライン上で面談を重ねています。「仕事面」では現場で使用する専門用語をピックアップし、分かりやすい日本語に置き換えたマニュアルの作成、お客様の部屋の名札や職員の名札にふりがなを付ける準備等をしております。「生活面」ではスーパー、病院、銀行などの地図やゴミ出しのルール表の用意、相談や付き添いを含めてのサポート体制の仕組み作り等を検討しています。



不規則勤務のできるケアワーカーの高齢化や新規入職者の減少、お客様の重度化など、様々な課題はありますが、できるかぎりサービスの質を落とさないためにも「ICT プロジェクト」「外国人介護人材受け入れプロジェクト」など積極的に取り組んで参ります。



鶴見光代様/折り紙



田中フミ子様/レース刺繍

【自己表現を楽しむ】



伊藤シツエ様/折り紙

掲載されているお客様の写真はご本人とご家族より掲載のご了解を得ています。また掲載している写真は、今年度以前の行事や催し物からのものも含まれます。

デイサービスセンター

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、行事レクリエーションの縮小、外出行事を見合わせていましたが、約2年ぶりに「春のドライブ」を再開しました。

3日間のみで開催でしたが、たくさんのお客様が参加されました。白石のサイクリングロード脇の桜並木、北広島市ふれあい公園の桜、ボールパークの3ヶ所に行きました。中でも、建設中のボールパークを間近に見学し皆様とても盛り上がっていました。



ホームヘルパーステーション

ヘルパーだよ！！全員集合！！♪



令和4年5月吉日研修を終えて記念撮影

この2年はマスク着用での訪問ですが、この場をお借りしてノーマスクでご挨拶させていただきます。日々の在宅生活を安心して過ごしていただけるよう、これからも、ヘルパー一同、微力ながら、お手伝いさせていただきます！

これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

居宅介護支援ステーション



介護支援専門員(ケアマネジャー)は、皆さまがご病気や障がいなどで生活のしにくさを感じることも生じてても、住み慣れた地域やご自宅で自分らしく過ごしていくことができるよう、相談・支援をさせていただく役割です。

介護保険の申請や利用について、介護保険サービスの紹介や調整などの相談をお受けしています。コロナ禍で、ご自宅への訪問も「マイ・消毒液」をカバンに入れ、しっかりと消毒を行い、工夫しながら行うようになりましたが、困った時に「ケアマネジャーに相談してみよう」と身近に感じていただけるよう、松浦・吉田・小野(支援センター兼務)・笠原の4名で頑張っています。今後もどうぞよろしくお願いいたします。

きた高齢者支援センター

【令和4年4月より「きたひろ健康ポイント事業」がはじまりました！！】



健康ポイント事業は、地域での支え合い体制づくりや自らの介護予防促進のための活動に対しポイントを付与する制度です。

65歳以上の方を対象にした、検診ポイント、健康づくりポイントの他、19歳以上の若年層が、高齢者施設等で行うボランティア活動に対して付与するボランティアポイントがあります。ポイントは、年間の付与数に応じた(上限設定あり)特典があります。聖芳園が主催する「西の里虹サロン」も健康ポイント事業に参加しています。まずは健康ポイント手帳を手に入れ、積極的に社会参加してみませんか。

手帳は、市役所、各出張所、高齢者支援センター等で配布しています。詳細は、市高齢者支援課(372-3311)、きた高齢者支援センター(375-5888)までお問合せください。

公益事業

地域の皆様のご協力をいただきながら西の里虹サロンを開催しています。

（現在、おれんじカフェは休止中）

今後も地域福祉事業者や地域ボランティア様と協働し気軽に集える機会を継続して参ります。

西の里虹サロン

地域の方が気軽に参加し、つどえる場として、地域のボランティア様とともに開催しております。近所に友達がほしい方、お茶を飲みながら気軽に話したい方、楽しく体を動かし認知症予防をしたい方や専門職に相談がある方など、どなたでも参加できます。

○日時：毎月第3土曜日 13時半から15時半

（現在は飲食を控え時間を短縮し開催しています）

○場所：西の里会館 集会室

○参加費 お茶菓子代 100円 （行事などにより別途負担いただくことがあります）

○申し込み：不要 直接会場にお越しください



現在、9名のボランティア（2名の男性と7名の女性）さんとともに活動しております。サロン開催時の会場設営や、参加者の方の座席へのご案内、初めての方が見えた時にはサロンの概要を説明するなど、たくさんの役割を担っていただいております。

西の里虹サロンは今年7年目を迎えました。ボランティアさんなくしてはここまで続けることはできなかったと思います。コロナでお休みした時期もありましたが、作年の11月から再開しています。これからもボランティアさんと一緒に、「楽しくまた来なくなるサロン」を目指して活動していきたいです。

ボランティア希望の方は、聖芳園までお問い合わせ下さい。



【編集後記】

緩和ケアや終末期医療に携わる医師が、コロナ禍では物理的な距離は離れても、こころの距離は遠ざけないことが大切、オンラインなどのテクノロジーが、その解決の一助となったと話をしていました。ただ、大事なことは対面でなくては伝わらない事もあり、うまく組み合わせ利用する必要があります。新型コロナウイルスは、完全になくなることは期待できず、ウィズコロナを意識した対応を求められています。これから、新しい形の「ひととのつながり」を作っていけたらいいと、笑顔の写真を見ながら考えていました。

広報委員 濱田美鈴

特別養護老人ホーム聖芳園／ショートステイ : (011) 375-3126
聖芳園 デイサービスセンター : (011) 375-5070
聖芳園ホームヘルプステーション : (011) 375-5080
聖芳園居宅介護支援ステーション : (011) 375-3245
北広島市きた高齢者支援センター : (011) 375-5888

ホームページ : <http://www.seihoen.or.jp>

〒061-1102 北広島市西の里 347 番地4

